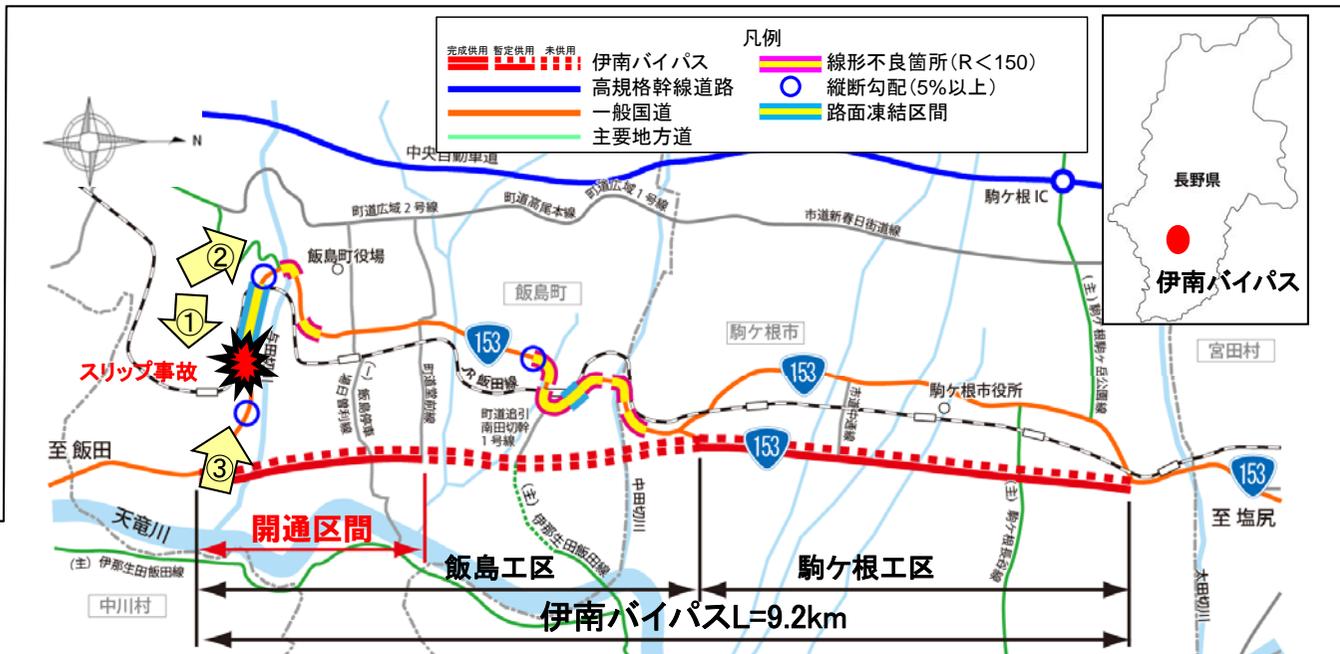


冬期の通行難所区間を回避し、安全な通行が確保

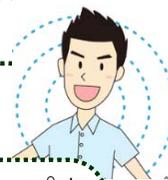
- 現道153号は、伊那谷特有の河岸段丘で急激な起伏やカーブ区間が多く存在する。
- 伊南バイパスの整備により、現道の急激なカーブ区間を回避でき、冬期の路面凍結等における安全な通行が確保。
- バイパス開通後、現道のスリップ事故による通行止めが発生したがバイパスへの迂回により住民生活、医療活動に混乱が生じなかった。



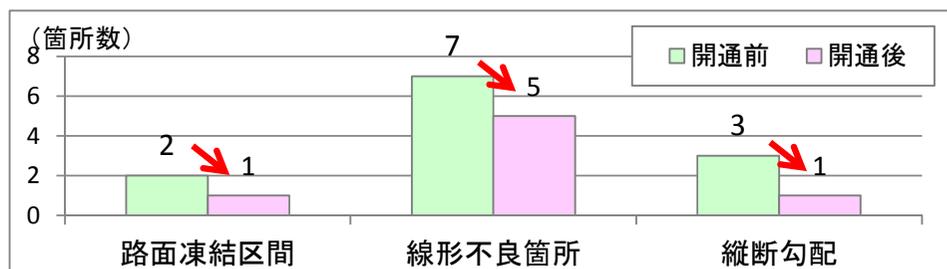
■ 地域の方の声



- 現道は、陽が全く当たらない場所があるので雪が降れば路面が凍結して危険だった。雪が降ると、車が全く進まなくなることもあった。
- 大型車がスリップした事故があり、通行止めになったがバイパスがあったおかげで大きな混乱がなかった。



- 平成25年2月に、凍結によるスリップ事故で現道が4時間程度通行止めとなった。バイパスがなかったら、救急搬送で困るところだった。
- この区間は、1日中、陽が当たらないので、冬期の走行には注意が必要になる。



対象区間：飯島工区（飯島町本郷～駒ヶ根市赤穂市場割）

<写真①>



現道は斜面の北側の為、陽があたらない

<写真②>



勾配がきつく、急カーブ区間

<写真③>



凍結による大型貨物のスリップ事故
この事故の影響により4時間にわたり現道は通行止め